令和６年度 第１回 尼崎２１世紀の森づくり協議会　議事録

日時　令和６年１０月２２日（火）14時00分～16時00分
場所　尼崎ﾘｻｰﾁｲﾝｷｭﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ ２階小ホール

○委員（出席者16名）　（五十音順）

氏　名	役　　職	備　　考
東　　朋子	NPO 法人コミュニティ事業支援ネット理事長	
井上　公宏	尼崎信用金庫執行役員サスティナブル推進部長	
今岡　政彦	尼崎商工会議所総務部長	
上田尾　真	(株)神戸新聞社阪神総局長	
植村　優子	阪神電気鉄道(株)沿線価値創造推進室部長	
岸本　幸三	NPO 法人尼崎 21 世紀の森理事	
上月　康則	徳島大学教授	
小林　拓哉	兵庫県阪神南県民センター長	
中瀬　　勲	兵庫県立人と自然の博物館名誉館長	会長
西村　善明	尼崎鉄工団地協同組合特別顧問	
藤井　大輔	尼崎市都市整備局長	
宗　　和弘	アマフォレストの会会長	
山浦　秀明	尼崎青年会議所委員	
山田　　隆	日本山村硝子(株)ＣＳＲ推進室長	
横田　敏治	尼崎市社会福祉協議会理事	
渡邉　明美	尼崎市教育委員会事務局学校教育部長	

○ゲストスピーカー（出席者4名）

氏　名	役　　職	備　　考
若狭　健作	(株)地域環境計画研究所代表取締役	
杉浦　　僚	特定非営利活動法人あまがさき環境オープンカレッジ	
寺田　昌司	(株)香山組DX推進部部長	
田中　怜菜	浜田化学(株)社長室広報企画	

■資料の確認／事務局

【資料】

資料１　「尼崎２１世紀の森構想」今年度の取組状況
資料２　環境学習フォーラム開催結果概要
資料３　活動体（森の会議）によるこれまでの取組と成果
資料４　「企業版森の会議」の実施状況と成果について
資料５　尼崎21世紀の森構想推進に向けた環境学習の今後のあり方について

【参考資料】

参考資料１　尼崎21世紀の森構想エリアにおける環境学習のプロジェクト
（令和5年度第2回協議会資料）
参考資料２　尼崎21世紀の森づくり協議会設置要綱

参考資料３　令和５年度第２回尼崎21世紀の森づくり協議会議事録

■会長による開会の挨拶

今年の3月で前職を退職し時間ができた中で、今年の2月から国内の生物多様性の高い湿地や保全地でどのような組織の人たちが、どのような活動をしているのかを調査してきた。尼崎21世紀の森づくりでは、初めはしっかりと行政が立ち上げたが、ようやく市民の方々へバトンタッチする時代になってきた。行政と市民がパートナーシップを組んだ新しい試みがさらに展開されるだろうと期待している。

環境省には、30by30に指定するだけでなく、どのように維持運営するかが大事であると言っている。尼崎には維持管理・運営をしていける人材がいると思うので、継続してもらえればと思う。

■報告事項

（１）「尼崎21 世紀の森構想」の今年度の取組状況（資料１）
（２）環境学習フォーラムの開催について（資料２）

〇資料説明（事務局）

資料１及び資料２をもとに事務局より説明。

〇意見交換

委員：一般来場者の大人59名に対し、アンケート回答数が28件と少ないと感じた。私自身、環境学習フォーラムに出席し、感動して、アンケートに回答させていただいた。素晴らしいフォーラムだったので、もっと皆さんにアンケートに協力いただきたいと思った。

会長：ご意見をふまえ、今後アンケートを実施する際は回答率が上がるように工夫していただきたい。

会長：ロハスとは、「Lifestyles of Health and Sustainability」の略語である。正式名称を記載いただければ、ロハスが示している意味が何かを再確認できると思う。

■報告事項

（３）活動体（森の会議）によるこれまでの取組について（資料３）
（４）「企業版森の会議」の実施状況と成果について（資料４）

〇資料説明

資料３及び資料４をもとに事務局より説明。
ゲストスピーカーより森の会議の活動内容の紹介。

〇企業版森の会議と環境学習フォーラムについてのコメント

ゲスト：ＮＰＯ法人あまがさき環境オープンカレッジでは、学校と地域を繋ぐ仕事を

している。先日、尼崎市立歴史博物館に行き、左手に工具を持っている像「工業の神」を見て、尼崎は工業というところに誇りを持っているのだなと感じた。小学校の授業では、「尼崎は工業のまち」だと言っているが、アクセスの課題などで、子どもたちは尼崎南部に行く機会があまり無く、小学生は「工業のまち」というイメージを持っていないのが現状である。
企業版森の会議では、「人に出会うこと」がポイントだったと思う。本日参加のゲストは、土木や建築業界のイメージを変えるため、働き方改革やデジタルの面で取り組まれている。また一方のゲストは、学生の頃にインターン生として尼崎の様々なお店の魅力発信をされていた。現在も、資源循環という点で、尼崎の環境のこと等を発信されている。このような方々と出会う中で、尼崎南部の魅力をどう発信していくのかを考えていく過程が大事。考えていく中で生まれてきたことが１つ１つの企画だと思う。今回の環境学習フォーラムはJR尼崎駅付近で開催したが、できるだけ尼崎南部に来てもらえるように何ができるかを企業の皆さんと考えていきたい。
企業版森の会議の参加者でカーペットの素材を作っている企業の方は、環境学習フォーラムで図工の先生と出会い、子どもがカーペットの素材を使った学習の展開について話されたようである。違う視点から見ると、普段見ている自分の会社の製品の新たな価値を知ることができる。企業版森の会議は、企業の今後の展望を見つけていけるような可能性を秘めているのではないかと思う。

ゲスト：企業版森の会議を通して、普段交流の無い企業や、団体の取組みを広く知ると同時に、尼崎21世紀の森構想エリアの歴史を学ぶことができた。尼崎で業務をしていても、自分たちが知らないことが山のようにあることが分かった。
環境学習フォーラムでは、各社が子どもたちにどのような環境学習をしてもらいたいかという目的をお持ちだったが、自社の製品や廃材だけでは限界があるということもあった。そのような中で、複数企業のコラボレーションにより、子どもたちに環境学習として広く伝えることができたのが一番のメリットだったと思う。
弊社では、発泡スチロールのブロックが廃材として発生しており、それを子どもたちに伝えると、「工事現場で発泡スチロールが使われているの！？」という質問や、驚きの声があった。
また、社内にこの話を持ち帰った時に、「素敵なイベントをしているなら、自分もやりたい。次は呼んでほしい。」という声をもらった。若い世代が環境学習に携わっていく中で、訪れた参加者の方々が、将来このような企業の一員になりたいと思ってもらえたら、企業として非常にメリットがあると思う。
今後は、ＳＮＳの発信など広報を強化することで、より多くの方に体験していただき、また、参画企業も増えれば、より大きなことに挑戦できる可能性があると感じる。
環境学習フォーラムの開催場所については、尼崎21世紀の森構想エリアで実施すれば、もっと伝えられることがあったのではないかと、参画企業の皆様が口を揃えて仰っていた。

ゲスト：弊社は、尼崎市東海岸町にあり、飲食店などから出た廃油の回収・リサイクル事業をしている会社である。尼崎で勤務していても、他にどのような企業があるのか見えていなかったが、企業版森の会議や環境学習フォーラムを通して、尼崎21世紀の森構想エリアの魅力を感じるきっかけになった。
環境学習フォーラムでは、油をリサイクルしてキャンドルを作るという、簡単にリサイクルを体験できるワークショップを行った。約80名の子どもが参加し、「油がリサイクルできるのを知らなかった。」という声を沢山いただき、リサイクルの意識が少しでも上がったのではないかと思う。他にも「尼崎にこのような企業があることを知らなかった。」という声があった。さらに、学校の教員の方ともお話しができ、SDGsの授業で何をしたら良いかわからない学校も多く、「工場見学に行きたい。」「リサイクルというテーマで授業をしていただきたい。」という声もいただけた。尼崎市内で開催したことで、次に繋がりやすいというのが、今回のイベントの良かった点だと思う。環境学習フォーラムで繋がった方や、尼崎21世紀の森構想エリアの企業と連携しながら、地域を巻き込んで盛り上げていきたい思う。

〇意見交換

会長：資料３の１枚目について、2013年以前の資料はないのか。2002年から2013年の協議会の動きについても情報を書き足すと良いかと思う。

委員：環境学習フォーラムに参加して、本当に良いイベントだと思った。発表内容や、企業の皆さんが連携して工夫された体験や展示などを、来場者の方が喜んでおられた。
資料に記載されている通り、広報を強化すれば、より広がるだろうし、過程を見える化していくことについて、今後、一緒に考えていけたらと思う。
オープンファクトリー的な動きが出てきて、地域づくりや、エリアの魅力向上に繋がれば良いと思う。

委員：企業の方が、土日出勤するのは難しいので、イベントの開催日は平日になるかと思う。しかし、平日もご両親が子どもたちを連れて尼崎21世紀の森構想エリアに訪れるのは難しいだろう。このような企業と来場者それぞれの希望が合いにくいので大変だったのではないかと察する。一番の成果は、企業の方々同士が交流し、繋がることができたことかと思う。
尼崎市や西宮市の学校が、環境学習の時間に皆で集まったり、学校の行事として来るような形であれば、平日でも子どもたちは参加しやすいかもしれない。企業の働き方改革による参加しやすい日時と、子どもたちが参加しやすい日時について検討されたらもっと楽しくなるのではないかと思った。

委員：当会では、森づくりや環境体験学習で小学校3年生の子どもの受け入れをしている。
森の会議の皆さんは、森を利活用するという面で森へ入ろうということを話

をされていると思うが、汗を流す作業をすることが、森に入るまず１つ大事なことだと思う。焚き火をするのであれば、自分たちで木を伐って初めて薪が取れる。森へ入るということが生物多様性への入り口だと表現されていたが、我々が森の手入れを始めた20年以上前から生物多様性への入り口は始まっている。森の会議に参加されている方々も、是非汚れても良い服装で来ていただき、年に数回でも森づくりをされたらどうか。

委員：尼崎運河でも10年間活動をしていますので、森づくりをされている方も、是非、運河にお越しいただきたい。我々は月１回、「オープンキャナルデイ」を徳島大学の先生や学生たちと開催している。そのようなことも是非資料に載せていただけるとありがたい。
SUPの教室もしており、今年に入ってからは100名程の方々に体験していただいた。また、青年会議所と連携して、100艇のSUPを運河に浮かべるイベントや、ロータリークラブと尼崎の海で魚を釣ってキャナルベースで調理し、子どもたちと魚を食べるイベントなどを開催しており、他団体の方も尼崎運河に来ていただいている。
南堀運河のりんりんロードは、釘が飛び出ているほどに、荒れているところもあるため、自転車が通りやすい舗装にした方が良い。
北欧で活動する団体「GreenKayak」は、2017年から運河のゴミを拾うことで無償でカヤックに乗ることができるアクティビティを提供し、現在、約1,500トンのごみが拾われている。尼崎運河は安全な水域であるため、このような取組みを行っても良いのではないかと思っている。皆が、水面に降りてもらえるようにしていきたい。

ゲスト：尼崎21世紀の森構想エリアで言う生物多様性は、生きものだけではなく森に関わる人の多様性も含んでいると思う。汗をかいて喜びを感じる人もいるが、中には汗をかくところから始めるのはしんどいと思っている人たちも多いと思う。森の会議では、森を活用するところに興味を持っていただくところから始まって、アマフォレストの会の方々が行っている森を育てていく活動に繋がるようにできればと思っている。
今回、森の会議に参加されている尼崎信用金庫の方がきっかけで、森の中に入るイベントを行うことになった。尼崎信用金庫では、森づくりを開始された当初のことを知っている職員も半分以下になり、何のために除草作業をしているのか分からない状況になっていることが課題になっているとのことである。森を楽しむことで、職員の方に何のために活動しているのかを気付いてもらえればと思っている。
森の会議は遊ぶ人達、アマフォレストの会は汗をかく人たちという分断をなくしていきたい。お互いに行き来しながら関われる人が増えればと思う。

委員：弊社として、尼崎の森中央緑地で森づくりを始めて14年経過している。アマフォレストの会のご協力もあり、立派な森ができている。2か月に1回除草間伐をしているが、去年、一昨年から行き詰まりを感じている。職員には森を好きになってもらいたい。

環境学習フォーラムでは、複数企業でコラボし、各々が持っているツールを提供し合ったことで面白いものができた。また、自分たちで尼崎21世紀の森構想エリアをこのようにしていこうと意見が出てきているのは、今年の一番の収穫である。森を好きになってもらうために、面白いと思うことに挑戦していくことが大事だという気付きを与えてもらっている。

委員：森の会議の紹介の中で、トンネルみたいになっている森の写真があったかと思う。ここに入れるようになったのは、つい最近のことである。これから森の利活用を考えるのには最適なところだと思うので、あの場所に目をつけたのはお目が高いと思う。

委員：アクセスの課題がいつも挙がるが、シェアサイクルはスポーツの森にしかない。バスに自転車を載せるなど、新しいシェアライドや、アーバンモビリティなどを考えて欲しい。イベント時にバスを手配するも良いが、尼崎南部であれば危険性は低いと思うので、電動キックボードのLUUPなどを導入すれば楽しめるのではないか。

会長：20年前に、委員が兵庫県立有馬富士公園で協議会を立ち上げられた。公園に来る人は、生きものと緑が好きな人が中心だが、もっと様々な人を呼ばないといけないと活動されてきた。多様な興味を持った人が入ってくるのが公園である。コロナ禍の朝日新聞の記事に「森は都市の肺」であると書いてあった。コロナの時の反省をもって、今の議論を振り返ると良くなるかと思った。

■協議事項

（１）「今後の森構想エリア内の環境学習のあり方検討」のとりまとめに向けて（資料5）

〇資料説明（事務局）

資料５をもとに、以下の内容を事務局より説明。

〇意見交換

会長：環境学習のあり方をまとめられたら、学会などでPRを兼ねて発表をされるとよいかもしれない。

委員：先日、ひょうごＳＤＧｓスクールアワードの審査委員会に審査委員として参画した。環境学習に取り組む幼稚園から高校生が、環境学習の取組みを紹介する動画で審査をしている。動画は全部で20校だったが、今年は尼崎21世紀の森構想エリアでの活動紹介動画はなかった。
兵庫県の事業なので、園や学校に働きかけ、尼崎21世紀の森構想エリアでの環境学習を推し進めてもらってはどうかと思う。

■その他（各委員の方からのご発言）

委員：尼崎運河で2002年から活動をしており、随分と運河の環境が良くなった。当

初、専門家からも「よくあのような所で活動するな」と言われていたが、近年は様々な研究者が集まり、成功事例として認められるようになってきている。
水質浄化施設を作り、そこで様々な生きものが集まるようになっている。自然共生サイトとして尼崎の森中央緑地が登録されているが、なぜ運河と海を一緒にしなかったのかと思う。森と海と運河が集まっているのがこのエリアの良いところであり、分けてしまっているのは残念なので、一体で見れるようにしていただきたい。

委員：様々な分野で様々な活動をされて、10年以上にわたって取り組まれていることには感服する。その中で、横の繋がりができたことは大事なことだと思う。広報の話が出ていたが、弊社では動画を配信することに力を入れている。動画だと若い人が見てくれる傾向にある。我々が取り上げたいと思わせていただける魅力ある活動を続けていただき、尼崎を超えて、県全体を巻き込んで活動をしていただければと思う。

委員：環境学習フォーラムに参加し、活気のあるイベントだと思った。当団体ではSDGsの普及活動をしているが、何をしたら良いか分からないという企業も多く、当団体の職員がこのようなことをしたらどうかと提案をしている。尼崎21世紀の森構想エリアを見学する際は、尼ロックで止まることが多いが、エリア全体の紹介もしていければと思う。他の地域の方に見てもらうのも良い機会になると思うので検討していきたい。

委員：様々な活動により、尼崎21世紀の森構想エリアが良くなってきていると思う。しかし、私自身は当団体に所属しているからこそ活動が見えてくるが、40年近く尼崎に住んでいる中で、一般市民の立場としてはこのエリアについてあまり情報が入ってこない。
飲食店経営をされているバルニバービでは、バッドロケーション戦略をしている方がいる。車でしか行けない田舎でカフェをされていて、カフェに行くためだけに人が行くという戦略をされている。例えば、高槻の安満遺跡公園では、広い敷地で周辺に何もないところに人が集まっている。尼崎の森は魅力あるものだと思うので、それを活かしながら、人が集まるきっかけなどを企業と協力しながら、考えていただければと思う。

委員：森の文化祭は、尼崎の森中央緑地を大庄の住民に知っていただくためにスタートした。この2年、大庄地区の企業に協力頂き、子どもたちに企業の職業体験などをしていただいている。来年、森の文化祭10周年に向けて、県や市に協力いただきながらやっていきたいと思う。

委員：尼崎に環境について学べる所があることは、子どもたちにとって素晴らしいことだと思っている。約10年前に、環境学習の手引きを作っていただいたり、尼崎の森中央緑地の絵本を作っていただいて、学校に寄付いただいたことを思い出していた。アマフォレストの会の方にもお世話になり、子どもたちが

自分で体験したところに、大きくなってから改めて見に行くことができるということが、ありがたいと思っている。
バス代の高騰により、バスで行くのが難しくなっている。尼崎21世紀の森構想エリアに行きたくても行けないという学校もある。環境学習に関する情報提供があれば、興味を持った先生や子どもたちが学習の選択肢の1つとして考えていただけると思う。小学生だけでなく、幼稚園の教員が伺ったり、高校生が参加したりしている。環境学習として行くのではなく、様々な機会で行くことで、尼崎21世紀の森構想エリアの良さを学んでもらえると思う。

委員：当市では、今年の3月に委員を会長に「みどりのまちづくり計画」をまとめた。みんなで識り、創り、守り、将来につないでいくということをキーワードに計画を改定した。国道43号以南は工業系の用途ということもあり、市民より、事業者が多いため、そのあたりの連携が尼崎市でも経済部任せになっている。企業版森の会議の資料にある通り、行政・企業・団体・住民の連携の場を広げるということに、我々もできる限りご一緒できればと思う。広報の強化についても、引き続き協力しながら尼崎21世紀の森構想エリアの価値を高めるようなことに繋げていけたらと思う。
当局は、交通政策も担っており、昨年度見直した交通政策の中で、国道43号以北では、市の都市公園やコンビニに協力頂き、この2～3年でコミュニティサイクルのポートの数が増えた。国道43号以南の交通の課題についても引き続き取り組んでいきたい。

委員：森のフェスタや環境学習フォーラム、企業版森の会議に参加している。尼崎以外の環境学習のイベントにもいくつか参加しているが、ネタ切れなところもあり、社内で集まってもなかなか新しいアイデアが出ない。企業版森の会議では、企画から他社と打ち合わせをしながら考えており、担当者としては良い経験になったのではないかと思う。現時点では、何か新しいネタが浮かんでいるわけではないが、活動を続けていくことで、お子さんたちに楽しさを感じてもらえるイベントができるのではないかと思う。今後も微力ながら様々な活動に参加したいと思う。

委員：森構想が発表された当初から森づくりに参加している。当団体はもともと、公害対策で市内各地にあった工場を一か所にまとめるためにできたものである。その場所ですき間緑化などの活動も行ってきた。森ができるということは蜜源ができるということで、当時銀座で行われていた事例を参考に、当団体での養蜂を開始し、現在、蜂蜜を採取した商品「尼みつ」を販売している。今年は、異常気象で採取できる量が少なかったが、引き続き、養蜂を続けていきたい。

委員：尼崎運河は、水質が改善されてきており、ウナギやワタリガニも生息している。綺麗になってきているので、水面に降りることも考えることができるようになったと思うので、運河を交通の場として使うことなども検討いただきたい。

委員：シェアサイクルの「HELLO CYCLING」がセンタープール駅と出屋敷駅にある。スマホのアプリで予約返却できる。脱炭素の動きもあるので、自転車でアクセスする取り組みを、まちをあげてやっていただくのが良いかと思う。

委員：森の文化祭は、来年で10周年となる。企業や団体の皆様にご協力を賜り、10周年に向けて頑張りたい。

委員：環境学習に目を付けてそれを発展させるのは良いことだと思う。どうしても尼崎の森中央緑地が中心になりがちであるが、国道43号以南の1,000haが森構想の対象エリアであるので、エリア内の各地に立地している企業が中心になり連携を深め新たな取組みをするのはありがたいことである。
県職員の多くは、尼崎21世紀の森構想を知ってはいるが、見たことがなく、来たことがないと思う。また企業からもどうすれば参画できるのか聞かれることが多い。環境学習フォーラムだけではなく、尼崎21世紀の森構想の推進自体を広報して、参画する個人や企業を増やしていくことが必要である。尼崎の森中央緑地と尼崎運河の間を自転車で繋げることも１つだと思う。いかに楽しく歩けるようにしていくかということを会で話し合っていただき、人を惹きつけるニーズが増えれば、夢も実現に近づくのではないか。今後の展開にも、その視点を入れていただければと思う。

会長：委員からご紹介があった安満遺跡公園は、元々遺跡があり、建物を立てにくい場所ということもあったが、市民の熱意により開発ではなく公園ができた。
神戸新聞社が連載している「里へ」が日本新聞協会賞を受賞された。この連載企画の担当者が兵庫県立人と自然の博物館に来られたため、人と自然に関わることについて情報提供をした。尼崎21世紀の森構想エリアにも、記者の方に来ていただき、うまく報道してもらえるようなことがあれば良いと思う。
富山県の魚津市で「魚津三太郎塾」という活動に呼ばれたことがある。様々な企業の方が20人くらい集まり、チームを作って起業することをテーマとして活動をされていた。尼崎でも異業種交流によって、起業など新たなコトを動かしてもらえれば面白いと思う。
森に入る際に、日本庭園の借景庭園の極意である、風を見て鳥を聞くということを森でやってもらえると面白いと思う。
ニューヨークのセントラルパークでは、利用者が気になる箇所を位置情報付きで管理事務所に情報を送り、事務所は、収集したその情報をもとに危険な箇所を確認し、修理など対応している。りんりんロードでもそのような仕組みがあれば良いのではないか。
企業とうまく連携し、尼崎21世紀の森構想エリアで新たな取組を展開していただけるとよい。

■閉会

以上